

PHC 凝固線溶セミナー 九州 2025



2025年 11月1日(土) 13:30 ~ 17:05 (予定)

リファレンス博多駅東 4F

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東1丁目16-14

<https://re-rental.com/ekihigashi/access/>

お申し込みは下記URLまたは二次元コードより事前登録をお願い致します

<https://x.gd/LWlSb>

お申込み後、リマインドメールが届かない場合は、
申込画面内にあるお問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。



特別講演

敗血症性DIC治療のUp To Dateと 当センターにおける治療戦略

福岡大学医学部 救命救急医学講座

仲村 佳彦 先生

教育講演

外注検査用の凝固検査検体の安定性

福島県立医科大学 保健科学部 臨床検査学科

松田 将門 先生

企画委員

大分大学医学部附属病院

輸血部

古賀 紳也 先生

熊本大学病院

中央検査部

福吉 葉子 先生

佐世保市総合医療センター

医療技術部臨床検査室

池田 栄一郎 先生

鹿児島大学病院

検査部

笠畑 拓志 先生

特別講演

敗血症性DIC治療のUp To Dateと 当センターにおける治療戦略

福岡大学医学部 救命救急医学講座

仲村 佳彦 先生

敗血症に播種性血管内凝固症候群（disseminated intravascular coagulation; DIC）を合併した際は死亡率が上昇することがよく知られている。原疾患の感染症治療のみならず、DIC自体を治療することで生命予後改善が期待できる。本邦においてリコンビナントヒト可溶性トロンボモジュリン(recombinant human soluble thrombomodulin; rhsTM)製剤およびアンチトロンビン（antithrombin; AT）製剤がDICに対し広く用いられている。

日本版敗血症診療ガイドライン（J-SSCG）は2012年に初版が公開されて以降、4回目の改定版になるJ-SSCG2024が出版され、敗血症性DICに対するrhsTMおよびAT製剤の推奨が引き続き述べられている。さらに、日本血栓止血学会播種性血管内凝固（DIC）診療ガイドライン2024も新たに公表され、敗血症に伴うDICの診断と治療の項においても敗血症に伴うDICに対してのrhsTMおよびAT製剤の推奨が出されている。本セミナーでは敗血症性DICに対するこれら治療薬の位置付けを紹介し、当センターにおけるDIC治療薬の効果を検証した検討結果を含めて提示する。

教育講演

外注検査用の凝固検査検体の安定性

福島県立医科大学 保健科学部 臨床検査学科

松田 将門 先生

凝固検査では、「検査の質は検査前で決まる」とされるほど、検査前の検体取扱い手順が結果に大きく影響する。具体的には、検体の搬送や保存などの手順である。従って、患者の病態を正しく反映した検査値を報告するには手順の規定が必要であり、それにはまず、手順の違いが検査値に及ぼす影響を調べる必要がある。凝固検査における検体取扱い手順の規定は米国や英国から発表され、本邦でも日本検査血液学会（JSLH）が発表した「凝固検査検体取扱いに関するコンセンサス」がある。しかし、これらの規定は院内検査に対するものであり、外注検査に特化した規定はほとんどない。外注検査は、院内検査より、採血から測定までの時間が長い／工程が多いことを考えると、外注検査に対する規定が必要である。

演者らはJSLHの標準化活動として、外注検査の環境を模倣した条件下で検体安定性の検証実験を行った。本講演ではその結果を概説し、外注検査に適する手順を考えたい。

PHC株式会社 製品紹介

STACIA CN10

特定保守管理医療機器
一般名：血液凝固分析装置
販売名：全自動凝固部検査システム
STACIA CN10
製造番号：1381X1014400038



※ご不明な点がございましたら PHC セミナー運営事務局または弊社営業担当までご連絡ください

本セミナーのお問い合わせ先

PHC株式会社 セミナー窓口
ivd-db-qakiroku@gg.phchd.com

PHC株式会社のHPはこちらの二次元コードから
ご覧いただけます

